

## 2023年度 専修大学 高校教員対象 研修プログラム

実施期間：2023年8月1日（火）、8月2日（水）

実施方法：専修大学生田キャンパス 9号館

主 催 専 修 大 学

後 援 文 部 科 学 省  
神奈川県教育委員会  
千代田区教育委員会

## <2023年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」ご案内>

★主催：専修大学

★後援：文部科学省、神奈川県教育委員会、千代田区教育委員会

★実施期間：2023年8月1日（火）、8月2日（水）

10:00 開講式

★実施会場：専修大学生田キャンパス 9号館

●小田急線 向ヶ丘遊園駅 下車（新宿から急行で約20分）

【バス】北口より「専修大学9号館」、「専修大学前」、「あざみ野駅」または「聖マリアンナ医科大学」行きバスで約10分

【徒歩】南口より14～20分（次頁をご参照ください）

●東急田園都市線・横浜市営地下鉄 あざみ野駅 下車

【バス】「向ヶ丘遊園駅」行きバスで約35分

★定員及びお問い合わせ先 ※(a)を@記号に置き換えてください。

教科	日時	定員	お問い合わせ先
倫理	8月1日（火）	40名	金子 洋之 hkaneko(a)isc.senshu-u.ac.jp
国語	8月1日（火）	30名	山口 政幸 yamachi(a)isc.senshu-u.ac.jp
日本史	8月1日（火）	50名	歴史学科 inforekishigak(a)@gmail.com
世界史	8月2日（水）	50名	
英語	8月2日（水）	50名	上村 妙子 taekok(a)isc.senshu-u.ac.jp
地理	8月2日（水）	20名	山本 充 yamamotom(a)isc.senshu-u.ac.jp

※お問い合わせは、上記のEメールのみとさせていただきます。

※電話・FAX等でのお問い合わせはご遠慮ください。

### ★申込方法

専修大学ホームページより申込フォームに必要事項を入力し、「送信」をクリックすることで申込手続きが完了となります。

2023年度高校教員対象研修プログラムHP

<https://www.senshu-u.ac.jp/event/nid00019089.html>

★申込締切：7月7日（金） 10:00まで

※応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選された方には受講方法に関する詳細を申込時にご登録いただいたメールアドレス宛にご案内いたします。（7月14日（金）予定）

※なお、抽選にもれた方へも同日中にメールにてお知らせ致します。

### ★参加費：無料

1. 会場には駐車場がございませんので来場の際は公共交通機関をご利用ください。
2. 本学では宿泊施設のご案内は行っておりません。

2023年度高校教員対象  
研修プログラムHP





## <2023年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」概要>

倫 理 . . . . . 3

高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

国 語 . . . . . 5

新たな国語への展望と日本語・日本文学文化

日本史・世界史 . . . . . 9

日本史・世界史研究の最前線

英 語 . . . . . 13

英語教育・学習への新たな挑戦と可能性—異文化コミュニケーションとドラマの手法を  
とりいれて—

地 理 . . . . . 16

地域をとらえる地理的な視点

文学部学科紹介



## 倫 理

### 高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

この研修プログラムの目的は、まず第一に大学での哲学の講義・教育が実際にどのように行われているのかを見ていただくことにあります。そしてそれを起点にして、高校の教育を大学の哲学教育にどう接続するか、大学の研究成果から高校の倫理や公民（あるいは論文指導）で使える材料をどう引き出すか、大学新入生の背景的な知識を大学側がどう踏まえるべきかなどの問題を考え、ご意見をいただいております。これは、本プログラムの一貫した目的であり、本年もそのような視点から三つの講義を用意いたしました。

**期日：2023年8月1日（火）**

**定員：40名（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）**

10：30～10：40 挨拶・趣旨説明 担当：金子洋之（文学部教授・副学長）

10：40～12：00 「日本の芸能の根底にあるもの」 講師：出岡 宏（文学部教授）

前回のここでの講義では、日本人の死生観を、民俗のレベル・芸能のレベル・思想家のレベルという仕方でも階層化しつつ、それらを概念的に整理することを試みた。今回は、特に芸能（その始原である声明を含む「語り」系の芸能）に範囲を絞り、実際にそれらを少しずつ視聴しながら、その根底にある思想（死生観と信仰的な内意を含んだ世界観）を剔出することを試みたい。大雑把に先取りしておくなら、ここでは、愛別離苦を免れないこの無常世界において、仏教の説く空の哲学はそれを真理として保持したまま、しかし同時に、硬質な仏教が説くこの世界の否定ないし脱色に至ることなく、この世を色ある豊饒な世界として、生き生きと肯定する思想を見出すことができるだろう。

12：00～13：00 昼休み

13：00～14：20 「プラトン後期対話篇の特質 ～「動」と「数」の観点から」  
講師：高橋 雅人（文学部教授）

ソクラテスの徳に関する「何であるか」の問いと不知の自覚を描く初期対話篇から出発したプラトンは、イデア論と魂の不死を中核に据えた形而上学を構築し、それを華麗な文体で綴る中期対話篇を著した。しかし後期対話篇ではそれらの要素は影を潜め、煩瑣な議論と晦渋な文体が取って代わる。高校の「倫理」ではほとんど触れられることのないこのような後期対話篇は、しかしながら、プラトン哲学の新たな展開を示し、後世への影響もまた大きい。本講義では、プラトン後期対話篇の特質を「動」と「数」の観点から考察してみたい。

14：30～15：50 「美術館とはなにか——公共圏と芸術」 講師：島津 京（文学部准教授）

フランス革命後に誕生したルーヴル美術館は、世界初の公共美術館といわれる。その後美術館は各国に設立された。日本でも京都府美術館や東京府美術館などを皮切りに、今日では各地に美術館がある。美術館は芸術作品が置かれるだけでなく、さまざまな芸術的、倫理的問題を露呈させる場ともなってきた。例えば、裸体作品を美術館に展示することの是非が問われたり、マイノリティの文化を展示することが「文化の盗用」として非難されたりしたのである。また、2022年には、環境保護活動家が美術館の展示作品に攻撃を加えて主張をアピールする事件が立て続けに起きたが、美術作品への攻撃事件は昔から起きている。美術館がこうした問題のプラットフォームとなるのはなぜなのか。本講ではこれを、公共と芸術という観点から考察したい。

※それぞれの講義には質疑応答時間20分を設けております。本年は懇談会を行いません。

専修大学文学部哲学科  
専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師。）

伊藤博明（いとう・ひろあき）教授	芸術論、思想史
出岡 宏*（いずおか・ひろし）教授	日本倫理思想史／日本人の自然観、芸道の思想、小林秀雄の思想
金子洋之（かねこ・ひろし）教授	論理学、数学の哲学、言語哲学／直観主義の哲学的基礎、フレーゲ研究
佐藤岳詩（さとう・たけし）准教授	メタ倫理学／応用倫理学
島津 京*（しまづ・みさと）准教授	芸術学／美術史
高橋雅人*（たかはし・まさひと）教授	ギリシア哲学
貫 成人（ぬき・しげと）教授	現象学、現代思想、舞踊美学、歴史理論／身体論、歴史と世界システムの理論
檜垣立哉（ひがき・たつや）教授	フランス現代哲学 日本哲学 生命と自然
宮崎裕助（みやざき・ゆうすけ）教授	西洋哲学、ヨーロッパ現代思想、美学と政治、脱構築の思想

文学部 哲学科



## 新たな国語への展望と日本語・日本文学文化

今回は、新たな時代の高校国語への展望について 3 名の講師によりレクチャーを展開いたします。最初に、高校国語科の新しい科目編成を踏まえ、教材研究について具体的な観点から学習指導のあり方を検討した上で、教科内容に関連する日本の伝統文化と近代文学の各分野から鑑賞と解釈について探っていきたいと思います。

期日：2023年8月1日（火）

定員：30名（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

10:10～10:20 開会挨拶 山口 政幸（文学部日本文学文化学科）

10:20～11:20 「言語文化」の効果的な学習につながる日本語学的教材研究」

担当：山下 直（国際コミュニケーション学部日本語学科）

平成30年版高等学校学習指導要領の必履修科目の一つである「言語文化」は、古典と現代文の両方の「読むこと」の学習を行わなければならないが、週2回の授業では時間が足りないと困っている先生方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。本講義では「言語文化」という科目が設けられたねらいを改めて確認するとともに、日本語学の視点から教材分析を行うことで、週2回の授業でどのような学習を展開できるのかを探っていきます。具体的な教材としては、太宰治「待つ」と土佐日記の冒頭部分を取り上げる予定です。

11:20～12:20 「『宇治拾遺物語』を読む」

担当：蔦尾 和宏（文学部日本文学文化学科）

『宇治拾遺物語』と言えば、古文入門の定番作品です。その平明・簡潔な文章は確かに入門に相応しく思えます。

しかし、文章の平易さとはうらはらに、いざ読解するとなると、実はなかなか厄介な、したたかな作品でもあるのです。

その一端を第二話「丹波国篠村に平茸生ふる事」を例として、ご紹介します。

12:20～13:30 昼食と懇談／図書館見学ツアー（希望者）

13:30～14:30 「小説中の比喩表現」

担当：山口 政幸（文学部日本文学文化学科）

小説の中で使われる比喩表現は物語の緊張を高めるのに使用されたり、登場人物の口を借りて物語の方向性を指示したりと、さまざまな面を見せる。今回は、高校への出張授業での教材から、やや古めかしいと高校生が感じ取った比喩表現を取り上げ、あわせてそれらの作品や作家について話を進める。尾崎紅葉の『冷熱』、吉屋信子の『花物語』、横溝正史の『蝶々殺人事件』などに触れて行く。



専修大学文学部 日本文学文化学科  
専任教員プロフィール（専攻分野と担当授業科目）

（氏名の50音順。印は今回の研修プログラム講師）

（下記科目のほか、「専修大学入門ゼミナール」「ゼミナール1・2・3」を担当しています）

- 今井 上（いまい・たかし）教授 平安朝文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学通史／日本文学講義／日本文学研究
- 宇野瑞木（うの・みずき）講師 伝統文化・比較文化研究  
主な担当科目：伝統文化研究／比較文化研究
- 大浦誠士（おおうら・せいじ）教授 上代文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学講義／日本文化研究
- 小山内伸（おさない・しん）教授 現代文学・演劇研究  
主な担当科目：現代文化研究／演劇研究／現代文学研究
- 川上隆志（かわかみ・たかし）教授 日本文化研究、出版文化論  
主な担当科目：日本文化研究／出版文化論
- 小林恭二（こばやし・きょうじ）教授 小説・俳句・演劇研究  
主な担当科目：日本文化講義／文藝創作
- 高橋龍夫（たかはし・たつお）教授 近現代文学・文化研究、国語科教育  
主な担当科目：日本文学研究／国語科教育法／教育実習
- 蔦尾和宏（つたお・かずひろ）教授\* 中世文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学概論／日本文学研究／日本文化講義／国語科教育法
- 廣瀬玲子（ひろせ・れいこ）教授 中国文学研究  
主な担当科目：中国文学史／中国文学講義／中国文学研究
- 松尾治（まつお・おさむ）准教授 書学・書道史・書写書道教育  
主な担当科目：書道／書道科教育研究
- 丸井貴史（まるい・たかふみ）准教授 近世文学・文化研究  
主な担当科目：比較文学研究／日本文化講義
- 山口政幸（やまぐち・まさゆき）教授\* 近現代文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学講義／日本文学通史／日本文学講読
- 米村みゆき（よねむら・みゆき）教授 近現代文学・アニメーション文化論  
主な担当科目：日本文学概論／日本文学講義／ビジュアル文化論／児童文学研究

専修大学国際コミュニケーション学部 日本語学科  
専任教員プロフィール（専攻分野と担当授業科目）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師）

（下記科目のほか、2・3・4年生のゼミナールを担当しています）

阿部貴人（あべ・たかひと）准教授      社会言語学  
主な担当科目：社会言語学／日本語情報処理／日本語の社会的研究

王 伸子（おう・のぶこ）教授      音声学 日本語教育学  
主な担当科目：日本語の音声／日本語教育実習C／日本語表現論1／日本語（留学生科目）

斎藤達哉（さいとう・たつや）教授      日本語の文字・表記  
主な担当科目：日本語の音韻・表記

須田淳一（すだ・じゅんいち）教授      歴史日本語学 文法リテラシー教育  
主な担当科目：日本語の歴史的研究／学習文法研究

高橋雄一（たかはし・ゆういち）教授      現代日本語文法 日本語教育学  
主な担当科目：日本語の文法／第二言語習得研究

備前 徹（びぜん・とおる）教授      社会言語学 日本語教育学  
主な担当科目：現代日本語の研究／日本語教育実習B

丸山岳彦（まるやま・たけひこ）教授      コーパス日本語学  
主な担当科目：日本語の語彙・意味／日本語情報処理／コーパス日本語学

山下 直（やました・なおし）教授\*      日本語学 国語科教育学  
主な担当科目：日本語学入門／国語科教育法

## 日本史・世界史

### 日本史・世界史研究の最前線

私たち歴史学科の教員は世界史的視野に立ち、個々の問題感心にもとづいて研究・教育にたずさわっています。本プログラムでは、高等学校の先生方との交流・討論を通じて、歴史事実の捉え方や教え方についてともに考えていきたいと思えます。

日本史科目(講義A/講義B)と世界史科目(講義C/講義D)は、例年のことながら、新たな内容にて開講されます。研修への参加はこれまでどおり、申し込みの時点でA・B・C・Dから全部、あるいは一部分を選んでいただくことが可能です。

本プログラムは、2020年度は中止、21年度はオンライン開催でしたが、22年度は対面で開催されました。熱のこもった講義に活発な質疑応答がなされ、対面することのメリットを改めてご実感いただけたのではないかと思います。豊かな自然環境に立地し設備にも恵まれた生田キャンパスにおいて、皆様と直接交流を深められることを楽しみにしております。

**期日：2023年8月1日(火)・2日(水)**

**定員：日本史・世界史(講義A～D)各50名程度、両日にわたり複数の講義に応募可**

(応募多数の場合は、抽選とさせていただきます場合があります。)

## ◆ 日本史 8月1日(火)

10:10~10:30 ご挨拶 (歴史学科全専任教員から一言ずつ)

### 10:35~12:15 「渡来系文物から探る東日本の古墳時代」(講義A)

講師：小林 孝秀 (文学部准教授)

古墳時代の日本列島は5世紀以降、東アジアの先進的な技術・文化が伝わるなかで、急速な発展を遂げたことが知られますが、そこでは渡来人が果たした役割が大きかったとされます。本講義では、東日本各地で発見される渡来系文物(朝鮮半島系資料)の様相に着目し、その検討から渡来文化・渡来人の実態に迫ってみます。さらに、そこから浮かび上がる東日本の実像をもとに、古代国家形成の動向を捉えなおしてみます。

12:15~13:30 昼休み (歴史学科全専任教員との懇談/図書館見学)

### 13:30~15:10 「近世後期江戸における超高齢者の家族と暮らし」(講義B)

講師：西坂 靖 (文学部教授)

天保改革のさなかの天保14(1843)年5月、江戸の町奉行所は、町方居住の90歳以上の超高齢者に対し御手当米を与えるという事業を実施しました。対象となったのは、麻布本村町の治兵衛102歳を筆頭とする35人の人たちでした。この事業のために作成された調査記録(市中取締類集・高年御賞之部)をもとに、江戸町方の超高齢者がどのような人間関係に支えられて暮らしていたのかについて、個々人の具体的な事例に即して微細に探ってみたいと思います。

15:10~ アンケート記入

## ◆ 世界史 8月2日(水)

10:10~10:30 ご挨拶 (歴史学科全専任教員から一言ずつ)

### 10:35~12:15 「サティー(寡婦殉死)—イギリス支配とインド社会再考」(講義C)

講師：志賀 美和子 (文学部教授)

インドには女性を劣った性とする思考に基づく諸慣習があります。幼児婚、花嫁持参金、寡婦再婚の制約などです。これらの慣習は、前近代的な伝統の残滓でありインドの後進性を示すものと見なされがちですが、実はイギリス植民地支配下でヒンドゥー教徒全般に広まっていきました。本講義では、今なお散発するサティー(寡婦殉死)の慣習を事例に、イギリス支配がインド社会に与えた影響を再考します。

12:15~13:30 昼休み (歴史学科全専任教員との懇談/図書館見学)

### 13:30~15:10 「スポーツから見えるアメリカ社会、アメリカの歴史—交錯する人種・ジェンダー・愛国主義」(講義D)

講師：南 修平 (文学部教授)

スポーツはアメリカ合衆国の代表的なエンターテインメントであり、日常生活に根差した大衆文化と言えるでしょう。人気スポーツの多くがアメリカに拠点を持ち、世界各国から多くの人材が集まっています。本講義ではスポーツにまつわるいくつかの事例を用い、それらから見えてくるアメリカ社会の複雑な様相を紐解いていきます。そして、身近な話題をきっかけとして、歴史から物事を捉えることがいかに有用で、魅力に満ちたものかということについて、話題を提供できればと考えています。

15:10~ アンケート記入

## 2023年度 歴史学科

### 専任教員15名のプロフィール

(50音順。\*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

#### 飯尾秀幸 (いとお・ひでゆき) 中国古代史

【著書】『中国史のなかの家族』(山川出版社 2008年) 【論文】「秦・前漢初期における里の内と外」(『中国前近代史論集』汲古書院 2007年) 【共訳】「張家山漢簡『二年律令』訳注(1)」～「同(14)」(『専修史学』35号～48号 2003年～2010年)

#### 鬼嶋淳 (きじま・あつし) 日本近現代史

【著書】『戦後日本の地域形成と社会運動—生活・医療・政治』(日本経済評論社 2019年)  
【共著】『戦後知識人と民衆観』(影書房 2014年) / 『新生活運動と日本の戦後—敗戦から1970年代』(日本経済評論社 2012年)

#### 小林孝秀\* (こばやし・たかひで) 日本考古学

【著書】『横穴式石室と東国社会の原像』(雄山閣 2014年) 【論文】「つくば市西栗山遺跡出土の多孔式甗—渡来系資料の評価をめぐる視点—」(『生産の考古学』Ⅲ 六一書房 2020年) / 「関東北西部の横穴式石室—導入とその系譜をめぐる—」(土生田純之編『横穴式石室の研究』同成社 2020年)

#### 志賀美和子\* (しが・みわこ) インド近現代史

【著書】『近代インドのエリートと民衆—民族主義・共産主義・非バラモン主義の競合』(有志舎 2018年) 【共著】『わかる・身につく—歴史学の学び方』(大月書店 2016年) / 『論点・東洋史学』(ミネルヴァ書房 2022年)

#### 高久健二 (たかく・けんじ) 韓国・朝鮮考古学

【著書】『楽浪古墳文化研究』(学研文化社 1995年) 【論文】「楽浪・帯方郡埴室墓の再検討—埴室墓の分類・編年、および諸問題の考察—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』151号 2009年) / 「新羅積石木槨墓の埋葬プロセス—皇南大塚を中心に—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』211号 2018年)

#### 高橋和雅 (たかはし・かずまさ) アメリカ近現代史

【著書】『カオスの社会史—戦間期シカゴのニアウエストサイド境界—』(彩流社 2021年)  
【共著】『歴史のなかの人びと—出会い・喚起・共感—』(彩流社 2020年) 【論文】「「地域コミュニティ」志向の芽生え—1930年代シカゴ、ウエストサイド歴史協会の事例から—」(『専修史学』70号 2021年)

#### 田中正敬 (たなか・まさたか) 朝鮮近代史・日朝関係史

【共編著】『地域に学ぶ関東大震災』(日本経済評論社 2012年) / 『関東大震災と朝鮮人虐殺』(論創社 2016年) 【論文】「植民地期朝鮮の専売制と塩業」(『東洋文化研究』13号 2011年)

#### 田中禎昭 (たなか・よしあき) 日本古代史

【著書】『日本古代の年齢集団と地域社会』(吉川弘文館 2015年) 【共編著】『関東条里の研究』(東京堂出版 2015年) 【論文】「古代戸籍のなかの母子—大宝二年半布里戸籍にみる戸の編成と家族」(『国立歴史民俗博物館研究報告』235号 2022年)

**中林隆之（なかばやし・たかゆき）日本古代史**

【著書】『日本古代国家の仏教編成』（塙書房 2007年）【論文】「石作氏の配置とその前提」（『日本歴史』751号 2010年）／「日本古代の「知」の編成と仏典・漢籍—更可請章疏等目録の検討より—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』194号 2015年）

**西坂靖\*（にしざか・やすし）日本近世史**

【著書】『三井越後屋奉公人の研究』（東京大学出版会 2006年）【共編著】『京都冷泉町文書』全7冊（思文閣出版 1991～2000年）【論文】「近世後期江戸における地方出身者の転入と定着—天保十四年・高年御賞対象者を事例に—」（『専修人文論集』108号 2021年）

**南修平\*（みなみ・しゅうへい）アメリカ史**

【著書】『アメリカを創る男たち—ニューヨーク建設労働者の生活世界と「愛国主義」』（名古屋大学出版会 2015年）【共著】『「ヘイト」に抗するアメリカ史—マジョリティを問い直す』（彩流社 2022年）【論文】「「ブルックリン・ドジャースを探して」—労働民衆史から捉えたブルックリン・ドジャースとその移転」（『立教アメリカン・スタディーズ』34号 2012年）

**日暮美奈子（ひぐらし・みなこ）ドイツ近現代史**

【共編著】『<近代規範>の社会史—都市・身体・国家—』（彩流社 2013年）【論文】「帝政ドイツと国際的婦女売買撲滅運動—西部国境を越える女性の移動から考える」（『歴史学研究』925号 2014年）／「アウグステ・ヴィクトリア—皇后の「使命」と母性」（『専修史学』71号 2021年）

**廣川和花（ひろかわ・わか）日本近代史**

【著書】『近代日本のハンセン病問題と地域社会』（大阪大学出版会 2011年）【論文】「「隔離」と「療養」を再考する： COVID-19 と近代日本の感染症対策」（『専修人文論集』109号 2021年）【共訳書】アン・ジャネッタ『種痘伝来—日本の〈開国〉と知の国際ネットワーク』（岩波書店 2013年）

**松本礼子（まつもと・れいこ）近世フランス社会史・都市史**

【共著】『地域と歴史学—その担い手と実践』（晃洋書房 2017年）／『〈フランス革命〉を生きる』（刀水書房 2019年）【論文】「18世紀後半パリのポリスの特質—『悪しき言説』をめぐる取り組みを手掛かりに」（『西洋史学』253号 2014年）

**湯浅治久（ゆあさ・はるひさ）日本中世史 [歴史学科長]**

【著書】『戦国仏教』（中公新書）（中央公論新社 2009年）／『蒙古合戦と鎌倉幕府の滅亡』（吉川弘文館 2012年）『中世の富と権力—寄進する人びと』（吉川弘文館 2020年）

歴史学科



## 英語教育・学習への新たな挑戦と可能性 —異文化コミュニケーションとドラマの手法をとりいれて—

英語英米文学科では受講者と講師、および受講者同士が交流を深め、有益な情報交換の場を提供するために、本年度も教員研修を実施する運びとなりました。

期日：2023年8月2日（水）

定員：30名

### プログラム

10:30 - 10:35 開会の挨拶

10:40 - 12:00 異文化コミュニケーションの視点から日本語と英語を考える  
講師 上村妙子（文学部教授）

日本人学習者にとって英語習得は難しいと言われていています。その原因の1つとして、日本語と英語は言語学的に大きく異なっていることが指摘されています。しかし、それだけではなく、日本語文化圏と英語文化圏ではモノの見方や捉え方、そしてコミュニケーションの仕方が異なり、このことが文化の一部である言語にも反映され、習得を困難にしていると言えます。このセミナーでは、まず、日本語と英語にはどのような違いがあり、そこには、どのような文化的差異があらわれているのかを眺めていきます。その際、異文化コミュニケーションの視点から、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの関連性にも触れていきます。最後に、異文化コミュニケーションの立場から日本語と英語を眺めることは、英語学習をより楽しく、またより効果的なものとする一方策であることを提案したいと思います。

12:00 - 13:00 Lunch Break / 図書館ツアー（希望者のみ）

13:05 - 14:35 **More English-through-Drama!**  
Lecturer: GILLIES Hamish（ギリズ・ヘイミッシュ 文学部教授）

Following the popularity of last summer's workshop, this year's workshop will keep, but also develop, the theme of incorporating English-through-Drama related tasks and activities into oral communication skills classes. After briefly reviewing the relevance of a drama-based approach to language learning and teaching, you will extend your range of strategies and activities that you can use or adapt in your own teaching context. These strategies and activities will incorporate both improvisation and script-based drama techniques. This is a "hands on" workshop, but no previous experience of drama activities is required in order to participate and benefit from the workshop. Also, bearing in mind the new material, last summer's participants are most welcome to attend!

14:40 - 14:50 アンケートのお願い

14:50 - 15:00 閉会の挨拶

# 専修大学文学部英語英米文学科

## 専任教員プロフィール

(50音順。\*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

石塚 久郎 (いしづか・ひさお) イギリス研究、医学史、文学と医学

【著書】 *Fiber, Medicine, and Culture in the British Enlightenment* (Palgrave Macmillan 2016年) 【論文】  
Enlightening the fibre-woven body: William Blake and eighteenth-century fibre medicine (*Literature and Medicine* 25号 2006年) 【監訳】『病短編小説集』(平凡社ライブラリー 2016年)

大久保 謙 (おおくぼ・ゆずる) イギリス文学 (特に近代イギリス小説)

【論文】「ジョン・ファウルズ『フランス軍中尉の女』～外来種と小説～」(『二〇世紀「英国」小説の展開』松柏社 2020年) / 「ワイルド、ドイル、秘密の手紙」(『オスカー・ワイルド研究』18号 2019年) / 「手の物語：アーサー・コナン・ドイル『緋色の研究』と『SHERLOCK』第1話「ピンク色の研究」」(『イギリス文学と映画』三修社 2019年)

岡部 玲子 (おかべ・れいこ) 英語学、心理言語学

【論文】「語彙爆発—日本語の自然発話コーパスに基づく考察」(『専修人文論集』109号 2021年) / Lexical integrity and acquisition of N-N compounds in Japanese: A preliminary study (『言語研究の楽しさと楽しみ』2021年) / V-V compounds in child Japanese: An experimental study (*Journal of Japanese Linguistics* 34号 2018年)

片桐 一彦 (かたぎり・かずひこ) 英語教育学、英語教員養成、言語能力の推定

【論文】「コアカリ導入前の教職履修学生の学修と発達状況：言語教師ポートフォリオ (J-POSTL) の省察を通して」JACET関東支部紀要8号 2021年) / 「1990年代におこなわれた早期英語教育とその効果～高校3年間の受容語彙知識量の面から効果量とペイズで教育効果を検証する～」(『専修大学外国語教育論集』47号 2019年) / Speaking proficiencies among Japanese high school EFL students over a three-year period (*The Japan Language Testing Association Journal* 16号 2014年)

\*上村 妙子 (かみむら・たえこ) 応用言語学、英語表現論

【著書】 *EFL Grammar for Japanese Students and Teachers* (Senshu University Press 2020年) / *Teaching EFL Composition in Japan* (Senshu University Press 2012年) / 『身近な異文化コミュニケーション—こころにユニバーサルデザインを—』(パレード) 【論文】 Producing summaries of expository writing: Examining contextual effects (*KATE Journal* 34号 2020年)

菊地 翔太 (きくち・しょうた) 英語史、歴史社会言語学

【論文】 A comparative study of *wh*-relativizers in Shakespeare and Fletcher (*Studies in Modern English* 33 2017年) / Relativizers in Shakespeare's drama: A sociolinguistic study (*Studies in English Literature. Regional Branches Combined Issue* 7 2015年)

\*Hamish Gillies (ギリズ・ヘイミッシュ) 応用言語学、第二言語 (外国語) としての英語教授法

【論文】 Crisis and Transformation in Language Learning Motivation: Applying a Complex Dynamic Systems Theory Approach. In W. Jackson et al. (eds.) *Crisis, Rupture and Anxiety: An Interdisciplinary Examination of Contemporary and Historical Human Challenges* (Cambridge Scholars 2012年) / Listening to the learner: a qualitative investigation of motivation for embracing or avoiding the use of Self-Access Centres (*Studies in Self-Access Learning* 1(3)号 2010年)

黒沢 眞里子 (くろさわ・まりこ) アメリカの風景論と墓地の研究

【著書】『アメリカ田園墓地の研究～生と死の景観論～』(玉川大学出版部 2000年) 【共著】『日本大百科全書(ニッポニカ)』(担当項目：アメリカ美術、アーモリー・ショー、連邦美術計画) 2003年 【翻訳】ドルー・ギルピン・ファウスト著『戦死とアメリカ～南北戦争62万人の「死」の意味～』(彩流社 2010年)



末廣 幹 (すえひろ・みき) イギリス演劇 (特にシェイクスピアと17世紀演劇)

【論文】「Stepping Westward ベン・ジョンソン喜劇のトポグラフィ」(『人文学報』342号 2003年) / 「イスラム恐怖を超えて『オセロー』とトルコ化の不安のレトリック」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア～世紀を超えて～』 研究社 2002年)

田邊 祐司 (たなべ・ゆうじ) 英語教育学、英語音声指導・習得、日本英語教育史【論文】「第13章 中等英語教育と音声教育—音声教育における「主体的・対話的で深い学び」—」長瀬慶來教授古希記念出版刊行委員会(編)『英語音声学・音韻論—理論と実践—』(pp.277-292、大阪教育図書)【共著】『ジーン・ニース総合英語 第2版』(大修館書店 2022) / 『文科省検定教科書 New Crown English Series 3』(三省堂 2023) / 『文科省検定教科書 Genius English Logic and Expression II』(編集代表、大修館書店 2023)

道家 英穂 (どうけ・ひでお) イギリスの詩、西欧文学の思想史的研究

【著書】『死者との邂逅—西欧文学は〈死〉をどうとらえたか—』(作品社 2015年)【翻訳】ロバート・サウジー著『タラバ、悪を滅ぼす者』(作品社 2017年)【論文】「ピーター・パンの孤独—J・M・バリーが憧れた家庭像—」(富士川義之編『ノンフィクションの英米文学』金星堂 2018年)

中垣 恒太郎 (なかがき・こうたろう) アメリカ文学、比較メディア文化研究

【著書】『マーク・トウェインと近代国家アメリカ』(音羽書房鶴見書店 2012年) / 『ハーレム・ルネサンス—〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批評』(共編著、明石書店 2021年)【論文】「チャップリンと1910年代アメリカ—「放浪者」像の生成—」(『アメリカ文学』76号 2015年)

濱松 純司 (はままつ・じゅんじ) 英語学、言語学 (統語論、形態論)

【共著】『プログレッシブ英和中辞典 第5版』(分担執筆) (小学館 2012年) / 『オーレックス 英和辞典』(分担執筆) (旺文社 2008年)【論文】Movement in the passive nominal and nominal morphology (*The Linguistic Review* 30 2013年) / On the role of the suffix in NP-internal movement (*English Linguistics* 14 1997年)

三浦 弘 (みうら・ひろし) 英語音声学・音韻論

【共著】『朝倉日英対照言語学 2 音声学』(朝倉書店 2012年) / 『現代音声学・音韻論の視点』(金星堂 2012年)【論文】「イングランド北部英語における母音の諸特徴」(『実践英語音声学』1号 2020年 アクセス [http://pepsj.org/chap\\_journal.html](http://pepsj.org/chap_journal.html))【翻訳】ポール・カーリー、インガ・メイス、ビバリー・コリンズ著『イギリス英語音声学』(大修館書店 2021年)

渡邊 真理子 (わたなべ・まりこ) 現代アメリカ文学

【共著】『揺れ動く〈保守〉—現代アメリカ文学と社会—』(春風社 2018年)【論文】「幻影のアメリカ—*Being There* における擬似アイデンティティ—」(『アメリカ文学研究』45号 2009年)【共訳】『スクリプナー思想史大事典』(項目翻訳) (丸善出版 2016年)

Peter Longcope (ロンコープ・ピーター) 第二言語習得、第二言語教育学

【論文】Missing the mark? Looking at recent language acquisition policy decisions in Japan through the lens of SLA research (『専修人文論集』97号 2015年) / Language attitudes and language contact in an FL setting (『専修大学外国語教育論集』43号 2015年) / A multivariate analysis of interlanguage differences between learner levels (『英語学論説資料』43号 2009年)

文学部 英語英米文学科



# 地 理

## 地域をとらえる地理的な視点

環境地理学科の2名の専任教員が、それぞれの専門分野である生態地理学および歴史地理学の講義を行います。講義では、地域の自然を理解するための視点や、現在の地域を理解するための視点について、研究動向や研究方法を含めて紹介します。

**期日 2023年8月2日(水)**

**定員 20名**

10:10~10:20 挨拶：荻谷 愛彦（文学部教授 環境地理学科長）

10:20~11:30 「誰もが暮らしやすい都市を考える」

講師：久木元 美琴（文学部教授）

近年、SDGsやダイバーシティ（多様性）といったキーワードが注目されています。都市には、女性、子育て世帯、障がい者、高齢者、外国人、セクシャルマイノリティなど多様なアイデンティティを持つ人々が暮らしています。これらの都市の生活者にとって、既存の都市の物理的・社会的環境、再開発、交通・各種サービスのシステムはいかなる制約や問題を持ち、どのように克服していけるのでしょうか。本講義では、最近の都市社会地理学の知見や事例を踏まえながら、公正な都市のあり方を考えます。

11:30~12:30 昼休み

12:30~13:00 図書館ツアー

13:10~14:20 「ヴァーチャル・エクスカージョンの試み」

講師：山本 充（文学部教授）

コロナ禍において、大学における授業もオンラインでの実施を余儀なくされ、野外におけるエクスカージョンの機会も奪われました。しかしながら、ネット上における多様なコンテンツをうまく活用し、実際に現地に行かなくとも、景観を観察し情報をえて、その場について理解を深めることができました。こうした手法は、リアルな授業においても有効であると思われます。ここでは、向ヶ丘遊園駅南口周辺において、ヴァーチャルにエクスカージョンを実施し、ネット上における地理関連コンテンツの利用方法を紹介します。

## 専修大学文学部環境地理学科 専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師。）

赤坂郁美（あかさか・いくみ）教授	気候環境学（身近な気候の成り立ちと変化、気候変動）
江崎雄治（えさき・ゆうじ）教授	人口地理学（人口移動、少子高齢化、地域人口の将来像）
苅谷愛彦（かりや・よしひこ）教授	環境地形学（地形発達、山地の環境変動、斜面変動）
久木元美琴*（くきもと・みこと）教授	都市地理学（都市の持続可能性、福祉・公共サービス）
熊木洋太（くまき・ようた）教授	環境地図学（防災などの応用地理学における地図情報）
高岡貞夫（たかおか・さだお）教授	生態地理学（森の自然の成り立ち、森と人のつながり）
松尾容孝（まつお・やすたか）教授	村落地理学（村の神秘の発見、現代農山村の地域構造）
三河雅弘（みかわ・まさひろ）准教授	歴史地理学（過去の景観や地域、古地図）
山本 充*（やまもと・みつる）教授	地誌学、地域研究（ヨーロッパ・アジア）

文学部 環境地理学科



文部科学省

<http://www.mext.go.jp>



神奈川県教育委員会

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6556/>



千代田区教育委員会

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/kosodate/>



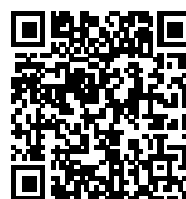
専修大学ホームページ

<http://www.senshu-u.ac.jp/>



専修大学文学部ホームページ

<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/letters/>



社会知性の開発をめざす

**専修大学** 文学部

高校教員対象研修プログラム実行委員会

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL: 044-911-1254